

## 調剤および服薬管理時における経口セマグルチド錠 （リベルサス®錠）の適正使用推進のための対応例（改訂）

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

### 1. はじめに

セマグルチドは、生体内の GLP-1 と 94%の構造的な相同性を有する GLP-1 アナログである。セマグルチドを有効成分とする週 1 回皮下投与製剤（オゼンピック®皮下注 SD、オゼンピック®皮下注 2mg：ノボ ノルディスク ファーマ）は、食事及び運動療法で効果不十分であったときに使用する 2 型糖尿病の治療薬として発売されている。しかし、オゼンピック®は注射製剤であることから、より利便性を高めるためにセマグルチドを経口投与可能とした製剤としてリベルサス®錠（ノボ ノルディスク ファーマ：以下、本剤とする）が開発された。本剤は、セマグルチドの吸収を促進するサルカプロザートナトリウム（SNAC）を含有していることから用法及び用量に関する注意を順守する必要がある、加えて製剤特性上、調剤時や保管上の注意事項や順守事項などが多く、薬剤師等の服薬管理や患者への服薬説明において困惑するケースに遭遇することが少なくない。そこで、本剤の臨床からの疑問・質問に対する対応（例）をまとめた。その後、令和 6 年 2 月 5 日に「原則としてミシン目以外の場所で切り離さない」と添付文書の記載内容が改訂されたことから、本てびきもそれに準じた改訂を行なった。

### 2. てびきの位置付けと編集の方針

本来、適正使用の観点から、本剤の用法や保管・管理は添付文書に沿って行う必要がある。しかし、臨床では特異な状況や患者の生活に応じた対応を迫られるケースもある。本てびきは、より適切な考え方と具体的な回答例を提示し、これらの対応についての方向性を示すものである。なお、回答例は個々の状況によって表現を変える必要も生ずるので注意が必要である。また、これらの疑問と回答については、チーム（主治医や多職種）内で事前に確認し、情報を共有することも重要である。

本てびきでは、日本くすりと糖尿病学会（JPDS：以下、本学会）のホームペー